

浜岡原子力発電所3号機 低圧タービン動翼の点検について

2012年12月5日

当社は、他の原子力発電所の低圧タービン動翼^{※1} 取付部(車軸側)に微細なひび割れが確認されたことを受け、浜岡4号機第13回定期検査において、浜岡4号機低圧タービン第7段～第12段の動翼取付部(車軸側)の超音波探傷検査^{※2}をおこなうとともに、超音波探傷検査で指示波形が確認された部位について、磁粉探傷検査^{※3}等を実施するため動翼の取り外しをおこなってきました。この際、取り外した動翼取付部(動翼側)の一部に割れおよびき裂を確認いたしました。

(2012年11月6日 お知らせ済み)

このため、浜岡3号機の同部位についても割れおよびき裂の有無を確認することとし、動翼を取り付けた状態で超音波探傷検査による点検を実施してきました。

このたび、浜岡3号機の低圧タービン(C)の第7段～第12段の動翼取付部(動翼側)全周について超音波探傷検査が完了し、低圧タービン(C)の発電機側第12段の動翼取付部(動翼側)に、有意な指示波形を確認したため、お知らせします。

指示波形が確認された箇所については、今後、動翼を取り外し詳細な点検をおこなってまいります。また、低圧タービン(A)(B)の動翼取付部(動翼側)についても引き続き超音波探傷検査による点検をおこなってまいります。

点検結果は、あらためてお知らせします。

なお、現在実施している低圧タービン(A)～(C)の動翼取付部(車軸側)の超音波探傷検査についても、引き続きおこなってまいります。

(2012年11月28日 お知らせ済み)

※1 タービンに入ってきた蒸気のエネルギーを回転力に変換する羽根であり、タービン車軸に固定され回転します。

※2 非破壊検査の一種で、検査対象物に超音波を入射し、対象物の内部を超音波の反射により調査する検査です。

※3 非破壊検査の一種で、検査対象物に磁界を作用させたときの磁粉模様により、対象物表面(表面近傍の内部を含む)を調査する検査です。

以上

